



みなみおか

第8号
2021. 10. 12
発行



「のびゆくこども」について

今年度も「のびゆくこども」を年2回の配付とし、10/1に子どもたちに配付しました。後半の学習に向けての課題や引き続き頑張してほしいところを記載しています。たくさん褒めていただき、後半に向けて頑張る原動力になればと思います。

また、「のびゆくこども」は昨年度より、2020年度からの学習指導要領に合わせて、評価を4観点から3観点（「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度（学びに向かう力、人間性等）」）に改訂しています。ただし、国語と算数については、つけてほしい力を領域（例えば⇒国語：「話すこと・聞くこと」、「書くこと」「読むこと」）等で評価しています。

そして学校がこの3観点を育てていくには「主体的に学ぶ」ことが大切です。「何のために学ぶのか?」という学習の意義を共有し、子どもたちが自ら学ぶことの後押しとなる、**生きる力**を育てていきます。

学校で学んだことが、子どもたちの「生きる力」となって、明日に、そしてその先の人生につながってほしいと思います。これからの社会が、変化し、今までと同じような活動ができなくても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動する。それが、子どもたちの「生きる力」となり、それぞれの幸せな未来に続くと思っています。

また、文部科学省からも、子どもたちの「生きる力」を育てるには、学校での学びを日常生活で活用したり、ご家庭での経験を学校生活に生かしたりすることが、とても大切だと通知が出ています。

お子さんが学校で学んだことについて、ご家庭で、ぜひ話してみてください。

保護者の皆さまの働きかけが、子どもたちの「生きる力」を育てる大きな原動力になります。

これまでの全国学力・学習状況調査の分析結果にも、保護者の働きかけがある子どもの学力は高いという傾向があると明記されています。 例えば・・・

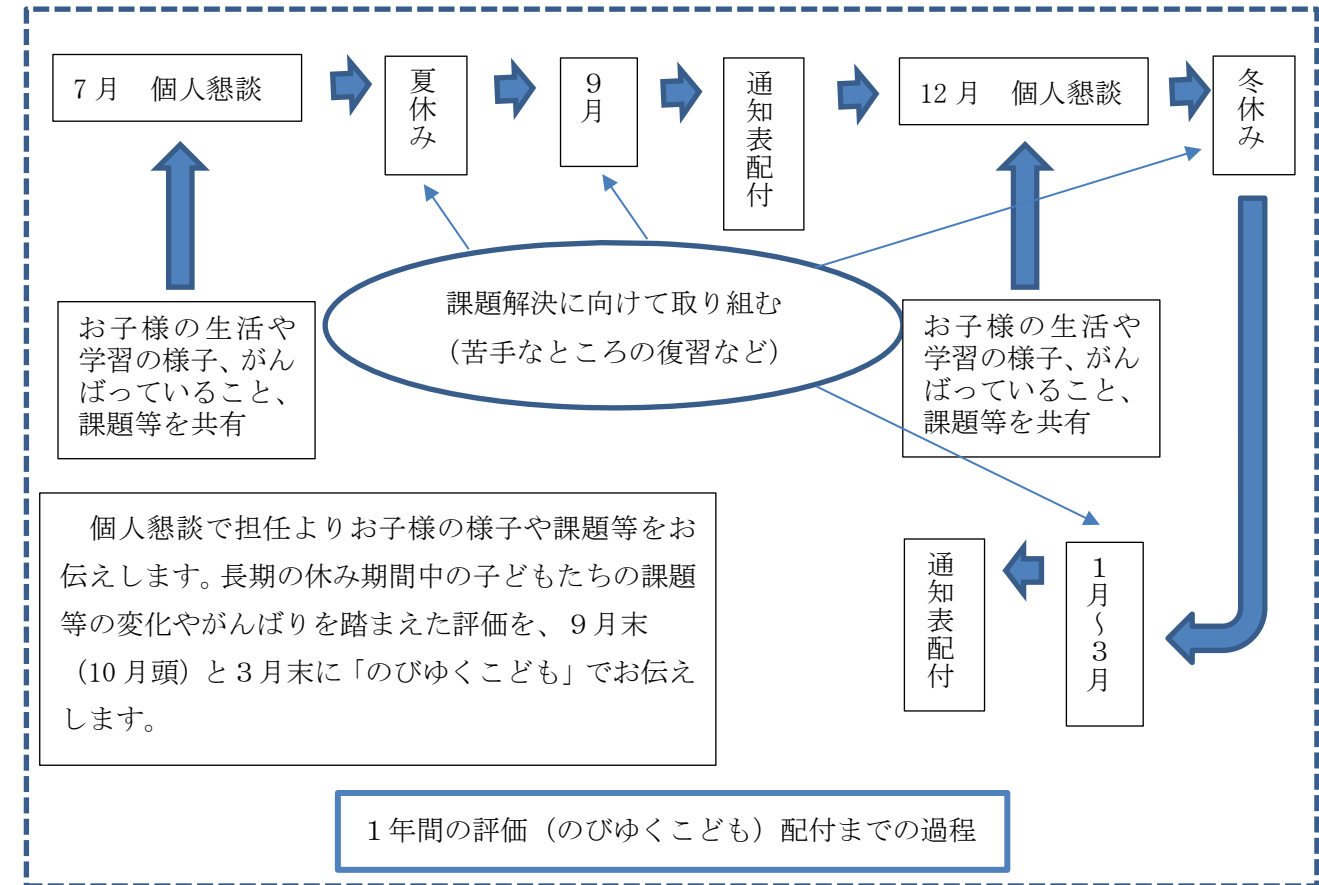
- 学校や友だちのこと、地域や社会の出来事など家庭での会話が多い。
- テレビ ビデオ DVDを見る時間などのルールを決めている。
- テレビゲーム（携帯電話やスマートフォンを使ったゲーム等を含む）をする時間を限定している。
- 子どもに本や新聞を読むようにすすめている。
- 子どもに最後までやり抜くことの大切さを伝えている。
- 自分の考えをしっかりと伝えられるようになることを重視している。
- 地域や社会に貢献するなど、人の役に立つ人間になることを重視している。

（平成 29 年度全国学力・学習状況調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究）文部科学省HPより抜粋

以上のことから、これまでが主に「テストの点数」や「出来たか出来ないか」、「発表しているのか発表していないのか」での評価だったのが、子どもたちの自主性を重視し、活動の状況など、子どもたちの学びに対する姿勢を様々な観点で評価（パフォーマンス評価）しているというのが新学習指導要領のポイントになります。



学年が変わると成績が落ちたという感覚を持つこともあるかもしれません。それは学年が変わったことで、求められることや必要とされる能力が変わったからということも背景にあります。子どもたちは、日々の学校生活からいろいろなことを学び成長していきます。成長のスピードも様々です。焦らずに子どもたちを見守っていただければと思います。



今後も「のびゆくこども」の配付を年に2回にすることを考えています。この評価方法により、子どもたちの様子や子どもたちの頑張りをよりよく引き出せるように考えております。

今後も、検討を重ねてまいりますので、よろしくお願いいたします。